

適正施設ガイドライン

【イチモンジタナゴ *Acheilognathus cyanostigma*】

2020年9月

公益社団法人日本動物園水族館協会

1 飼育環境

1-1 温度（水温）

成魚・未成魚は、室温飼育（6℃～30℃）、仔稚魚についても、繁殖時期の室温飼育（20～28℃）で飼育可能である。しかし、一日のうちに、温度変化が急激な場所、著しい高水温や低水温になる場所は飼育に適さない。どうしても飼育しなければならない場合は、クーラーやヒーターを設置して温度変化を少なくする必要がある。

1-2 設置場所

上記の温度条件を満たす場所が望ましい。また、水槽の前を頻繁に人が行きかう場所などでは、魚が落ち着かないことがあるので、避けた方が良い。どうしても飼育しなければならない場合は、水草や流木で隠れ家を設置するなどの工夫が必要である。

1-3 照明（日照、人工照明、照明時間長）

照明は自然光、人工照明（蛍光灯、LED 灯）のどちらでも良い。直射日光があたる場合は、水温が急激に変化する恐れがあるので注意しなければならない。また、光が強ければ、水槽内に藻類が発生しやすくなるので、メンテナンスの手間も考えなければならない。照明時間は、自然日長に合わせることを望ましい。

1-4 水槽容積

水槽の容積は、魚の成長により変更することが必要である。卵・仔稚魚の場合、30cm 水槽（30×18×20cm、7ℓ）で 50 個体ほど飼育できるが、成長に伴い個体数を減らすか、容積の大きな水槽に移動する必要がある。また、水質の急変などによる死亡のリスクを考えて、20～30 個体の少ない個体数で分散して飼育すると安心である。

未成魚や成魚は、90cm 水槽（90×45×45cm、180ℓ）で、10～15 個体ほどで飼育することが望ましい。また、水量が 1 トン（100×100×100cm、1000ℓ）を超える大型水槽などで粗放的に飼育することも、野性復帰を視野に入れる場合は有効であると考えられる。

1-5 構造、設備

成魚・未成魚では、水槽の水底に南国砂などの細砂を敷き詰める（底面濾過材との兼用可）。落ち着かせる目的で、沈木や水草などを設置すると良い。（写真 1）

1-6 飼育水（水質）

淡水魚の飼育水として実績のある天然水、または塩素を中和した水道水でよい。pH は、弱アルカリ～中性～弱酸性でよい。



写真 1 成魚・未成魚の飼育水槽